



# FRIENDS

帰国生 海外赴任サポート

第86号 2026年6月1日発行

## フレンズだより



がんばる帰国生シリーズ「インターナショナルスクールという選択をして」より

早朝の通学路の風景（ドイツ）

### CONTENTS

- .....
- P2-3 **【新企画】** 異国での経験・日本での挑戦「歌いたい100曲を歌い尽くす日まで」 フレンズ元スタッフ 永根 真紀
- P4-5 がんばる帰国生シリーズ「インターナショナルスクールという選択をして」 Y.S
- P6-10 **特集**「帰国生のもう一つの選択肢 — インターナショナルスクール」第1回  
国際教育シンクタンク International Education Lab (IEL) 所長兼上席研究員 村田 学
- P11 活動報告
- P12 学校案内／スタッフ募集／編集後記

## 歌いたい100曲を歌い尽くす日まで

フレンズ 元スタッフ 永根 真紀

今年には2026年。ということは・・・2006年に最後の赴任地より帰国してからちょうど20年。ああ、もう20年も経ってしまったのだという驚きと、なかなか良い20年だったという密かな満足感。この長い時間の中で、中高ダブル受験で帰った息子たちは無事成人し社会人となり、それぞれこれ以上ないほどの良き伴侶に恵まれて幸せに暮らしています。本当にありがたいことです。一方夫と二人暮らしとなった私は、子育て時代と同じくらい、もしくはそれ以上に多忙な日々を過ごしており、これもまた大変ありがたいことだと思っています。この忙しくも心浮き立つ日々は「大好きなこと」に出会えたときから始まりました。

私はピアノ教師だった母の影響もあり、子どもの頃から音楽に親しんできました。3歳からピアノを始め小4から3年間歌を習い、小学校卒業時の謝恩会で大勢の前で独唱したのが私の原体験となっています。その後混声合唱団で歌三昧の大学時代を経て、最初の赴任地フランスでも現地の先生を探してレッスンを受けた時期がありました。それからしばらく遠ざかっていたところ、再び歌に心が向かったのは長男の独立がきっかけでした。長男が就職と共に家を出た時、想像もしていなかった「置いて行かれた感」に襲われ、このままではいけない！これからは自分の道を歩いていかなければ！と思ったのです。そして、そうだ、私には音楽がある！と思い出した瞬間、暗いトンネルの先に

光が見えました。幸運にも巡り会えた近所の声楽の先生の下で2年ほど学んだ後、先生のお勧めにより音楽大学の別科を受験、合格し、濃厚な3年間の入り口に立ちました。音大の学びの場は私の世界を大きく変えてくれました。単純に「声楽を

基礎から学び直したい」という気持ちだけで入学したのですが、そこには年齢、楽器、バックグラウンドどれをとっても様々な人たちとの出会いが待っていたのです。ただ一つの共通点は「音楽が大好き！」ということ。これは何にも代えがたい最強の絆となり、今も多くの得難い音楽仲間を支えられています。1年間で修了する別科を繰り返し3年続けた後は尊敬する大学教授の個人レッスンを受け続け、入学から数えて今年で10年目を迎えました。まだまだ道のりは遠く、暇さえあれば発声のことばかり考えている毎日ですが、悩んで努力すれば必ず成長できるのが楽しくてたまりません。たとえそれが1ミリであったとしても、停滞せず前に進んでいる感覚が、生きている実感に繋がります。行動的で才能豊かな音楽仲間たちのおかげもあり、お客様の前で歌わせていただける機会は数知れず。大きなコンサートだけでなく、勉強会や高齢者施設でのボランティア演奏などを含めると年2-30回は歌い、力を試すためにコンクールにも定期的に挑戦しています。



さて、ご想像に難くないと思いますが、音楽の世界はお金がかかります。せつかく自分で手に入れた最高の楽しみのために使うお金は自分で作りたい！と常々思っていた私は、新たな仕事探しを始めました。自分が成長でき、長く続けられる仕事はないか。そこで出会ったのが「日本語教師」という仕事です。すでに日本語学校でご活躍中のフレンズの先輩が以前から勧めてくださっていたことを思い出し、日本語教師養成講座に通い始めたのが2020年。ちょうどコロナが出始めた頃でした。学校側も試行錯誤の中、オンラインと対



面を組み合わせると何とか修了、検定試験にも合格し、そのまま母体である日本語学校の非常勤講師としてスタートしました。コロナ禍ということで、教室に来る学生と日本に入れず自国からオンラインで参加する学生という構成の「ハイブリッド方式」で、授業の内容以上に機材の設置に冷や汗をかく日々。非常勤講師の採用数も少なかったため、手厚すぎる新人研修が提供され、最初3ヶ月は過酷な日々でした。でも、今思えばその時鍛えていただいたからこそ、自分を振り返りより良い授業を模索する習慣ができたのだと感謝しています。

採用時の面接で「あなたにとって良い先生とはどんな先生ですか」と聞かれました。そこで浮かんだのが二か所目の赴任地ロンドンで英語を勉強していた頃のことです。在英中5年間いくつかの英語学校に通いました。イギリスの英語学校は世界各地から真剣に英語を勉強する人々が集まり、基本的に「ケンブリッジ英検」という試験を受ける前提のクラス分けになっています。当初そんなつもりがなかった私も結局毎年試験を受けることになってしまい、かなり本格的に勉強しました。そこで心に残っているのは、最後2年ほど通った少人数のプライベートの学校です。先生方が学生に寄り添い、それぞれのニーズに合った内容を提供してくれたこと、得意なことが伸ばせるよう励ましアドバイスしてくれたこと。教室であるご自宅のキッチンで紅茶とクッキーをいただきながらおしゃべりする休み時間は、イギリス人の温かさに触れられた幸せなひと時でした。そんな様々なことを思い出し、面接で私の理想の先生像として話しました。外国人として異国に暮らす大変さは経験してみないとなかなか分からないものです。日本に移り住んだ人々にとって一番の関門である「日本語」を学ぶハードルが少しでも下げられるように、

日本はいい国だと思ってもらえるように、私のささやかな経験を最大限に生かし、心を込めて務めたいと



最初の英語学校にて

と思っています。昨年「登録日本語教員」という国家資格ができ、国も外国人に対する日本語教育の質を重視するようになってきました。いまや日本の人口の

30人に一人が外国人とされています。私は現在、留学生ではなく、生活者として日本に暮らす人たちの授業を希望し担当しています。様々な事情で生活する人たちの中には、自らの意志には関係なく日本に来ることになった人もいるかもしれません。彼ら彼女らは、まさに20年前の私です。せつかく縁あって日本に住むのならば、少しでも良い時間を過ごしてほしい。海外で受けた現地の人々の恩をこんな形でお返しできる日が来るとは思ってもいませんでした。大好きな音楽を続けるために始めた仕事は、ずっと続けていきたい大切なライフワークとなりました。

日常において、心が乱れ重い気持ちになることはもちろんあります。でも、自分が好きなことに向かう時間がそんな気持ちをどんどん小さくしてくれて、いつのまにかどうでもよくなるのが不思議です。自分でコントロールできることだけ、自分が頑張れば好転する可能性のあることだけに心を向けて暮らしていきたい。大好きな音楽とやりがいのある仕事が続けられる環境と笑顔で応援してくれる家族への感謝を忘れずに、これからも前を向いて歩いていきたいと思っています。

昔、息子が誕生日プレゼントにくれた小さなノートがあり、そこに歌った曲、気になる曲、本番の記録、反省点などを書き込むようにしています。そういえば先日、料理家の栗原はるみさんがTVで「やりたいこと100のリスト」の話がされていました。それを聞いて私は「歌いたい曲100のリスト」を書いていこうかと思いつきました。それらをすべて歌い尽くしてしまったら、さらなる100曲を考えましょう。今の目標は、90歳になっても背筋を伸ばし素敵なドレスを着て、美しい言葉で歌えること。楽しい自己鍛錬の日々はこれからも続きます。



日本語学校にて



今回は、幼少期の米国生活をきっかけに国内外のインターナショナルスクールにお子さんを通わせてきた方の経験をご紹介します。帰国生の教育システム適応は保護者の大きな悩みですが、海外大学進学も視野に入れた「インター継続」という選択肢も広がっているようです。今号の特集「帰国生のもう一つの選択肢—インターナショナルスクール」と併せてぜひお読みください！

「ママ、受付で『お邪魔します。』って言うっていいの？」  
東京でのインターンシップの初日に言った当時大学生の長女の言葉です。長女は4歳からアメリカの現地校、ヨーロッパのインターナショナルスクールと現地校、その合間に日本のインターナショナルスクール、海外の大学で教育を受けてきました。日本の義務教育は一度も受けたことがなく、第二外国語は小学校からフランス語。日本語はアメリカで行った補習校の3年間だけです。日本語での簡単な会話は大丈夫ですが、敬語や特別な言い回しなどに戸惑うことが少なくありません。インターンシップをした夏は敬語やビジネスメールの例文をノートにメモして頑張っていました。が、「人生で一番日本語を使った…」とため息をついていました。我が家の国内外のインターナショナルスクールの経験をご参考までにお話ししたいと思います。

### ●なぜインターナショナルスクールを選んだか

5年間のアメリカ生活ですっかり現地になじみ、自分は日系アメリカ人だと信じ切っていたほどの長女に、帰国を伝えた時の辛さは今でも忘れられません。帰国を伝えてから長女は毎日泣き続け、日本に戻ってからも半年近く「アメリカに帰りたい」と泣く姿を見て、アメリカに残った方が良かったのでは、と悩む辛い時期でした。



ポニーキャンプに参加↑

テキサスの州花・ブルーボネット畑↓



た。長女の通っていた現地校には日本人は長女だけだったこともあるのかもしれませんが、家で話す言葉も、読む本も、見るテレビも100%英語になっていました。補習校には一応在籍していましたが、まずは現地での生活を楽

しんでほしいと思っていた私たちは、お友達とのスリープオーバー、学校のサッカーの練習など、現地校のイベントを優先し補習校は行ける時に行くという方針でした。まだ17、8年前は帰国子女を受け入れる学校も今ほど多くなく、日本語がある程度できないと難しい時代で、現地校よりも補習校や家での日本語教育に力を入れていたご家庭が多い中、我が家はかなりのんびり過ごしていたと思います。帰国が決まったのは小学校5年生。長女は本が大好きで、先生からよく文章力を誉められていました。低学年で、読み書きを覚え始めた頃に帰国するのならまた違う選択をしたかもしれませんが、高学年になり思考する言語（アカデミックランゲージ）が確立し始めた時期に日本語に変えるのはリスクがあると思いました。日本語、英語に関わらず、アカデミックランゲージは一つの言語に決めたいという考えで、帰国後は長女にとって一番自然な英語で勉強を続けられる、長女が行っていた現地校に近い雰囲気インターナショナルスクールに入れることに決めました。

近頃のご両親日本人でもインターナショナルスクールにお子さんを通わせるご家庭も増えましたが、我が家がアメリカから帰国した頃はまだ珍しい方だったと記憶しています。日本のインターナショナルスクールでもその学年で初めての純ジャパ（両親日本人）、真っ黒に日焼けして、日本語を話せない長女はしばらく日系アメリカ人だと思われていました。

### ●カリキュラムの違い

日本で通っていたインターナショナルスクールのカリキュラムはアメリカに近かったため、帰国後はスムーズに新学期を始めることができました。5年後2回目の駐在が決まり、ヨーロッパのインターナショナルスクールへ行くことになりました。高校からIB（国際バカロレアはジュネーブに本部を置く国際的な教育カリキュラム。世界共通の評価基準に基づいた教育カリキュラムで探究型教育が特徴。世界中の多くのインター校で採用されている）に移ることになり、長女が最初に驚いていたのは、デ

イスカッションが多いことでした。体育で「体育をする意味」をグループで発表して真剣にディスカッションをしたと笑っていました。次女もまた同じIBスクールの小学部におり、一般的なカリキュラムのようにそれぞれの教科で授業内容が決まっているのではなく、大きなテーマごとに教科の枠を超えて英語、算数、理科などを学んでいました。地球・自然のようなテーマの時には、「お庭で松ぼっくりを皆で拾って足し算の勉強をした！」と嬉しそうでした。

日本でもIBカリキュラムを取り入れる学校が増えていますが、長女にとってとてもハードな、でもやりがいのあるカリキュラムだったようです。6つの分野から一つずつ教科を選び、2年間勉強するというシステムは、オールマイティに勉強できるお子さんに向いていると思いました。反対に何かの教科に飛び抜けて才能のあるお子さんには、得意なエリアにフォーカスできるアメリカのAPやイギリスのA-Levelのカリキュラムの方が良いのかな、など長女の大学受験を通して、海外での学校選びの際は早い段階でカリキュラムの違いや特徴を理解することがとても重要だと学びました。



ドイツ・インター校時代、スキー合宿に向かう娘

### ●インターナショナルスクールの選び方

今度は中東への赴任が決まり、次女のためのインターナショナルスクール探しが始まりました。日本でのインターナショナルスクール探しと同じように気をつけたのは、次の三点でした。

#### ① どのカリキュラムを選ぶか

帰国後にインターナショナルスクールで学ぶ一番のメリットは、学習のタイムラグが少ないことです。同じカリキュラムだと次の海外赴任の際もスムーズに学習を続けられます。また、高校生の場合はどのカリキュラムで大学を受験するか、必須科目の取り方なども考慮して決める必要があります。

#### ②学校のHigh School Profileを見る（高校の場合）

その学校の情報がまとめられたレポートがホームページに公表されています。（公表していない学校もある）学年の人数、国籍の数、IB、APなどの平均点、進学先を見ることができます。

#### ③ランゲージポリシー

学校の共通言語は英語で、他の言語は使わないように指導しているか。学校によっては、母国語を大事にするために教室の外では自由という学校もあります。そのようなインターでは国籍や母国語でグループができやすいので、個人的には英語が共通言語であると厳しく指導しているところの方が良いと思います。

日本のインターナショナルスクールは、①空きがあるか、②両親、本人の国籍、③英語力・学力、の順で考慮され合格が決まるところが多いです。

帰国または駐在が決まった時点で、すぐに色々な学校にコンタクトしました。学校によってはその時の状況で入学基準が違うので、興味のある学校全てにメール、電話をして、可能ならスクールツアーに行き比較するようにしました。

### ●日本でインターナショナルスクールを選んで良かったこと

娘たちは海外と日本で合わせて5校のインターナショナルスクールに通ってきました。インターナショナルスクールを選んで一番良かったことは、やはり学習を止めることなく転校できたことだと思います。長女はIBにカリキュラムが変わった時は少し戸惑っていましたが、IBで学んだ論文の書き方が、大学でとても役に立ったようです。さらに、これは帰国子女のお子さん皆さん同じだと思いますが、Open minded とよく言われるように、色々な文化や価値観を自然に受け入れられるようになると思います。日本国内にも多種多様なバックグラウンドの方達がいること、娘たち含めパスポートだけではわからない様々なストーリーがあって、それぞれ違うことが普通と受け入れるマインドが育ったことです。性の多様性に関する考え方もとても自然で、娘たちから教えてもらうことが多々あります。「多様性」という言葉をよく耳にするようになりましたが、ちょっととどたどしい日本語を話す、でも日本が大好きな海外から帰った子どもたちこそ、これからの日本をもっとカラフルにしてくれるのだと思っています。

# 帰国生のもう一つの選択肢 — インターナショナルスクール

## ～ 海外で子育てをする今、知っておきたい「もう一つの進路」

International Education Lab (IEL) 所長兼上席研究員 村田 学

海外で子育てをされている皆さまは、「帰国後、どの学校を選ぶべきか」という問いを常に考えているのではないのでしょうか。

日本人学校、現地校、インターナショナルスクール（以下、インター校）。赴任地によって選択肢は異なり、その違いは帰国後の進路にもそのまま影響していきます。

近年、帰国後の進路として「インター校を継続する」という選択を取るご家庭が増えています。単に英語教育の延長ではなく、帰国後の教育そのものに何を求めるかが変わり始めています。

私は、米国で生まれ、日本の教育を受けて育った帰国生です。これまで国内外のインター校を取材し、また都内でプリスクールの経営をし、現在も国際バカロレア認定校で幼小中高のあるインター校の共同オーナーでもあります。

そのため数多くの帰国生の進路を見てきました。かつては「帰国したら日本の学校へ」が自然な流れでしたが、今はそれだけではありません。国内の国公私立に戻る道もあれば、国内のインター校を選ぶご家庭も増えてきました。国際バカロレアの小中高や国際系中高一貫校といった「ほぼインター校」と呼ばれる選択肢も広がっています。

本記事では、フレンズの「学校案内制作現場から」の視点を踏まえながら、国立・公立・私立と並ぶもう一つの軸として、インター校という選択肢を整理していきます。

学校名だけでなく、その学校が属する教育文化や進路まで含めて見ていくことが、今後ますます大切になると感じています。



### 【インター校の成り立ち】

そもそもインター校は、もともと海外から来た駐在員の子どもたちのための学校として始まりました。

明治初期に欧米からキリスト教の宣教師、技術者、医師、貿易商など「技術・知識」の駐在員が来日し、外国人学校が始まりました。

戦後、外国人コミュニティを背景に設立された学校が多く、たとえばアメリカンスクール・イン・ジャパンは1902年から教育を続けており、長い歴史を持つ代表例の一つです。

日本において長らくインター校は「日本人が通う学校ではない」という印象を持たれてきましたが、現在、その役割は大きく変わっています。

背景には、経済活動の国際化、グローバル企業の増加、英語で学ぶ教育への関心の高まり、海外大学進学が人気になり、英語で学位の取れる大学の増加、そして帰国生の増加と多様化があります。日本国内の学校でも国際バカロレアやケンブリッジ国際カリキュラムの導入が進み、日本の学校とインター校の境界そのものが以前ほど明確ではなくなってきました。

たとえば、東京にあるブリティッシュ・スクール・イン・トウキョウ（以下、BST）は、英国ナショナルカリキュラムに基づく3歳から18歳までの一貫教育校ですが、2025年からは国際バカロレアのDPも開始しています。

### 「インターの子ども」と「帰国生」は必ずしも同じではない

帰国生入試では、ほとんどの学校で英語・国語・算数が課せられます。ところが、インター校で育った子どもは、英語力は高くても、国語の読解や記述、日本式の算数が弱いことがあります。

これは能力の問題ではなく、学んできたカリキュラムの違いによるものです。

フレンズのこれまでの学校案内でも、帰国生入試には日本の学習準備が必要であり、英語だけでは進路が成立しにくいことが繰り返し示されてきました。

小学生までは海外インター校で学び、中学受験で日本の学校に移る。高校段階で進路を見直す。あるいは大学で再び海外へ向かうといった「組み合わせ型」の進路を選ぶ場合、日本語力、算数が重要になってきています。

帰国後にインター校に編入した場合は、日本の学校とインター校の日本語力と算数のギャップを強く意識せずに済むこともあります。

再駐在や英語環境を維持したい。海外大学進学を視野に入れている。探究型・対話型の教育スタイルを重視したいというご家庭では、この傾向が強いように感じます。

## 国内インター校の選び方

帰国後にインター校を検討する場合、① 駐在員向けのインター校と② 日本人向けのインター校で大きく異なります。

# インターナショナルスクール計算式

## ① 理念

誰と何のために設立されたのか？

## ② ミッション

そのために何をどのように学ぶのか？



## ③ どのような生徒に

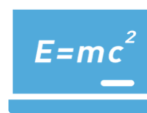


### 生徒構成

- ・ 米国系
  - ・ 欧州系
  - ・ 豪州系
  - ・ アジア系
  - ・ アフリカ系
  - ・ 南米系
- + 日本人

×

## ④ どのような学びで



### カリキュラム

- ・ 国際バカロレア型
- ・ 米国型
- ・ 英国型
- ・ カナダ型
- ・ フランス型
- ・ インド型
- ・ ミックス型

=



### インターナショナルスクール

## ① 駐在員向けのインター校

駐在員向けのインター校の場合、大きく駐在員の生徒構成、国、文化によって体系に分かれています。いわゆる老舗インター校と呼ばれている学校は、海外からの駐在員向けに開校した歴史があります。国内のインター校は、歴史的な背景から主に米国式が中心ですが、明治からフランス式、ドイツ式などもあります。近年、英国式とインド式も増えてきていますが、これはインドやシンガポールなど旧英国領の国々の経済成長が著しく、英国式の教育を受けた駐在員が日本に赴任することが増えていくことが背景にあります。

インター校は、駐在員の子どものための教育機関のため、駐在員の国・地域に合わせてカリキュラムを用意します。

そのためどの国からの生徒が中心なのか。生徒の国・言語の比率によってカリキュラムと校風が決まってきます。

学校は帰国後や進学準備を考慮し、カリキュラム、課外活動などを提供します。

## ② 日本人向けのインター校

1990年以降に日本人向けインター校が増えてきました。

駐在員向けのインター校の学びは、海外転勤族のためのカリキュラムや学びが中心でした。しかし日本人にとって学力面などで物足りず、また倫理観や道徳観など欧米ナイズされすぎていたことから

日本人式インター校が誕生しました。

代表例としては、ローラスインター校や関西国際学園、キャピタル東京インターナショナルスクールなどが挙げられます。これらの学校のように日本人にとって大切な日本語と文化を取り入れつつ、英語で探究的に学びやすいインター校が作られてきました。

関西国際学園は、日本語・英語で学べる国際バカロレア一貫校であり、海外大学だけではなく、国内の医学部などにも進学しています。

日本式インター校は、日本人にとって英語で探究的に学べる注目の選択肢になっています。



### 【欧米系インター校の学びの特徴】

米国式の特徴は、リベラルアーツ型の発想が強く、エッセイ、プレゼンテーション、ディスカッション、課外活動が重視されることです。米国の現地校やインター校出身者がそのまま継続しやすく、帰国生にとって比較的なじみやすいタイプと言えるでしょう。

英国式インター校の代表例としては、セントミカエル、BST、ハロウ安比校、マルバーンカレッジ東京校、ノースロンドン神戸校などがあります。

英国式の特徴は、学年が上がるにつれて科目の専門性が早く強まり、IGCSE や A-Level へと進んでいくこと、そして規律やハウス制などの伝統文化を重視することです。進路の見通しが立てやすい反面、途中編入では学習の積み上げが問われやすく、年齢が上がるほど参入の難しさを感じるご家庭もあります。

フランス式・ドイツ式インター校には、東京国際フランス学園、京都国際フランス学園、東京日仏国際学園、東京横浜独逸学園があります。

これらは日本にありながら、本国の教育制度と強く結びついた学校であり、フランス語やドイツ語を中心に学び、本国カリキュラムに沿って進んでいく色合いが濃い学校です。したがって、日本人の帰国生が新規に入るケースはゼロではありませんが、フランス語文化圏、ドイツ語文化圏からの帰国時に通学圏内にあれば選択肢に入る、という程度と言っていいいでしょう。

インド式インター校としては、グローバルインディアンインターナショナルスクールが代表例の一つです。インド州政府のCBSE、ケンブリッジ国際カリキュラムや国際バカロレアなどカリキュラムが選べる柔軟さが特徴です。

インド式の学校は、STEM教育や学習進度の速さ、学力形成への意識の高さが特徴として挙げられることが多く、学費とのバランスも含めて注目する家庭が増えています。とくにアジア圏で教育熱心な家庭の一部にとっては、有力な選択肢になりつつあります。

帰国生のご家庭にとって大切なのは、学校名の知名度だけではなく、その学校がどのナショナルカリキュラムに属し、どの文化圏の教育観を持っているかを理解することです。同じ「インター校」でも、入学後の学び方も、友人関係のつくられ方も、その先の大学進学も大きく異なるからです。



### 【インター校選びで最も重要な3つの視点】

帰国生のご家庭がインター校を選ぶ際には、少なくとも三つの視点を整理しておくことが重要です。

一つ目は、入学タイミングです。

インター校の新年度は、多くが秋ですが、日本式インター校では、春が増えています。

お子さんの誕生日によっては、学年が異なることがあり、意図しない飛び級が発生します。

飛び級などをし、その後、日本の学校を受験する時に今度は子どもの年齢に基づいて学年や就学の義務を決定する「学齢主義」で異なる学年になることもあります。

その場合、カリキュラムにズレが生じ、学力が落ちるケースもあります。

小学校低学年であれば環境への適応は比較的しやすい一方で、高学年から中学段階になると、既に積み上がっているカリキュラム差が大きくなります。

高校段階では進路に直結するため、学校選択そのものがその後の大学進学ルートと強く結びつきます。

特に英国式や学習進度の速いインド系の学校では、途中編入の難しさを感じるケースもあります。二つ目は、日本語と基礎学力です。

フレンズの資料でも繰り返し示されている通り、帰国後の進路では国語・算数、あるいは数学の力が非常に重要です。

たとえインター校を継続する場合でも、日本語をどこまで維持するか、日本式の基礎学力をどのように補うかは、後の進路選択に大きく影響します。

母語の読解力は、国語のみならず数学などでも必須になるため、家庭で継続的に取り組むのか、塾や補習を併用するのか、その設計が曖昧なまま進むと、高校や大学の段階で選択肢が狭まることがあります。

三つ目は、将来の進学先です。

海外大学進学を強く意識するのであれば、ディスカッションベースの学びのインター校は、入学後の授業がイメージしやすいでしょう。

非英語圏では、フランス式やドイツ式のように本国カリキュラムと直結したインター校の方が適している場合があります。

近年、国内では、英語で取れる学位を持つ大学が増えてきました。

東京大学、大阪大学など国公立大学をはじめ、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、ICUなど英語で学べる大学が増えています。

国内の英語で学べる国内大学の場合、インター校出身でなくても国公立高校からも入学者が多くいます。

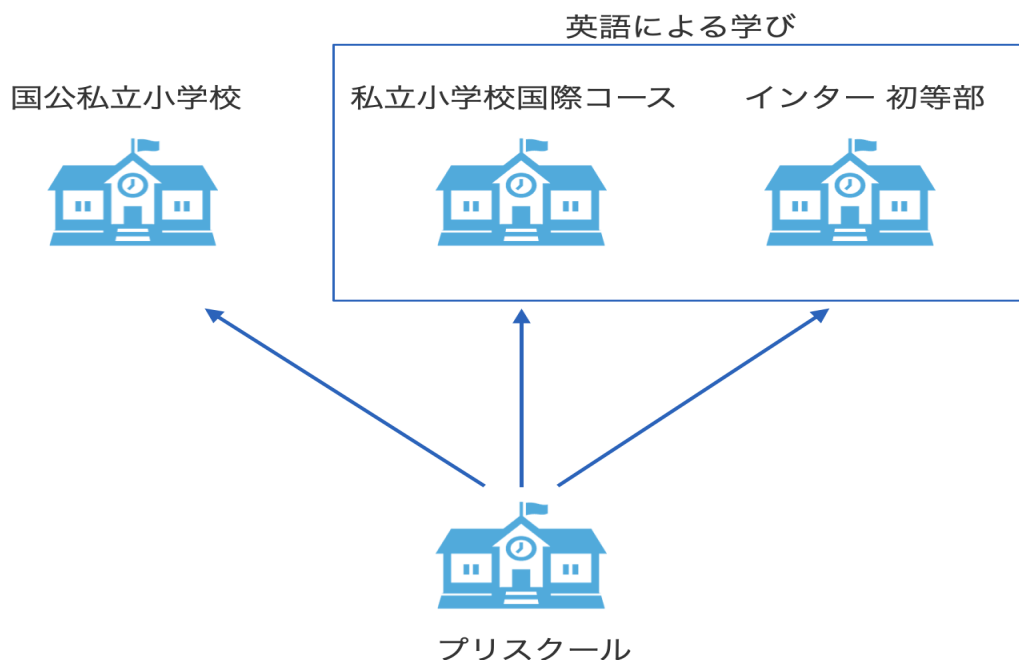
### 幼児期の帰国で人気のプリスクール

幼児教育について見ると、日本国内には英語で学べるプリスクールが多数存在し、一般に全国で約800園あります。

多くは、米国式ですが、近年、日本式プリスクールも増えています。米国式は遊びや探究を重視し、日本式プリスクールは、バイリンガル教育と保育機能を組み合わせ、フォニックスや基礎学力への意識が強いのが特徴です。

幼児期は柔軟性が高く、多くの子どもがさまざまな教育環境に適応できます。プリスクールは、駐在が予定に入っているご家庭にとって身近な進路です。

その後の進路として、下記のルートが考えられます。

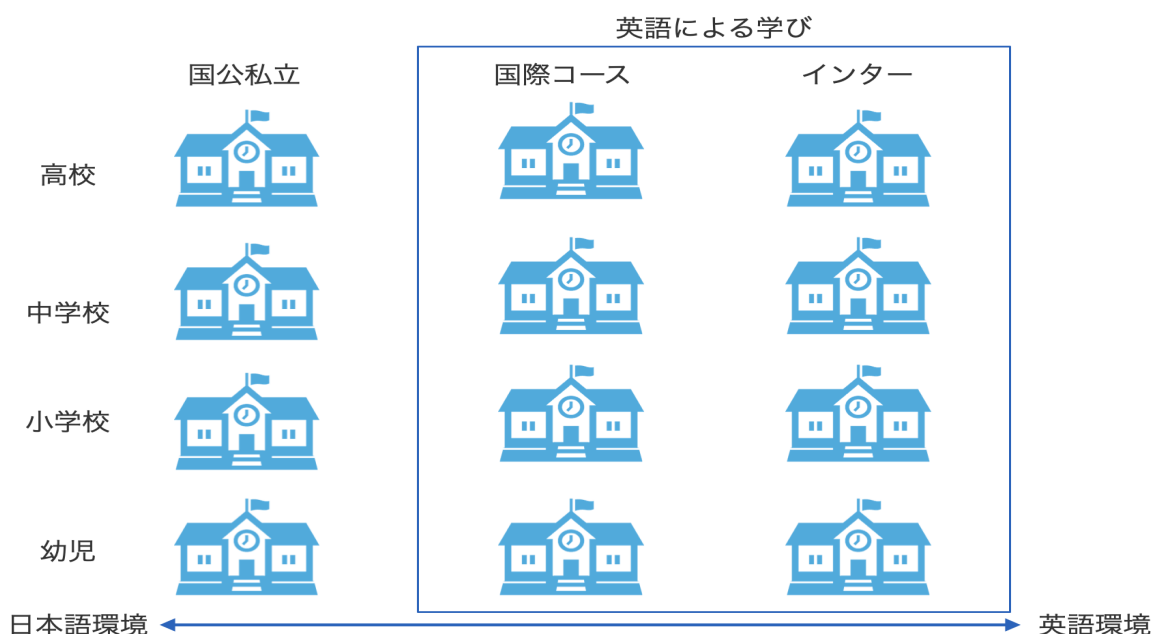


従来は、英語で学べるためインター初等部が人気でしたが、近年は、英語で学べる小学校の国際コースが増えてきました。

昭和女子大学附属昭和小学校の国際コース、幕張インターナショナルスクールのように帰国生を中心とした小学校やLCA国際小学校、サレジアン国際学園小学校のインタークラス、西武学園文理小学校は、バイリンガルクラスを27年に開校予定です。

- ・プリスクールから国公私立小学校
- ・プリスクールから私立小学校国際コース
- ・プリスクールからインター初等部

このように幼少期に駐在先から帰国しても、英語で学び続ける選択肢も増えてきました。プリスクール卒園後、日本語環境の小学校に進学した場合は、英語力が急激に下がるため、英語学童保育や英語補習塾を選ぶことが戦略的な英語力維持と向上に繋がります。



### 【進路は「四層構造」で考える】

現在の帰国生の進路は、多様化しており、構造で整理すると理解しやすくなります。

大まかにどのタイミングで英語環境になるのか。戻ってきた後にその環境を続けるのか、を図に丸をつけながらお子さんの進路を大局観を持っていただければと思います。

重要なのは、この三つは、それぞれ固定された進路ではなく、途中で移動でき、組み合わせることも可能だという点です。

小学校ではインター校、中学では海外に駐在、帰国して日本の高校の国際コースなど、進路は一直線ではなくなっています。

海外での子育ては、常に選択の連続です。そして、その選択に唯一の正解はありません。

フレンズの「学校案内制作現場から」が示してきたように、学校は一つひとつ異なり、その特徴も年々変化しています。

だからこそ大切なのは、「どの学校が有名か」ではなく、「お子さまに合っているか」という視点です。

夏休みなどの一時帰国の機会に学校見学を重ね、親子で話し合いながら進路を考えることは、とても意味のある時間になるはずです。

学校名やブランドだけでなく、その学校の教育文化、学び方、進路の出口までを含めて見ていくことで、帰国後の選択はより納得感のあるものになるのではないのでしょうか。

# 2025 年度活動報告 (2025/4/1~2026/3/31)

フレンズ帰国生海外赴任サポート

1. 海外赴任全般と帰国後の学校に関する相談、問い合わせ  
① 電話による相談：15 件 ② メールによる相談：11 件 ③ 面談による相談：8 件
2. 賛助企業依頼による海外赴任前セミナー  
① 個別面談 (Web・対面) 29 件 ② 個別相談 (メール) 0 件 ③ 講義 (Web) 1 件
3. 『帰国生のための学校案内 2026—首都圏版』2025 年 10 月発行  
掲載小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・高等専門学校：約 330 校 発行部数 900 部
4. 機関誌『フレンズだより』 84 号 (6 月発行)、85 号 (12 月発行) 各 1500 部  
主な配布先：賛助企業、文部科学省、公益財団法人海外子女教育振興財団、海外全日制日本人学校/補習授業校、首都圏の小中学校・中学校・高等学校、教育関係機関、諸団体、国内・海外定期購読者、来訪者 他
5. 勉強会  
・海外子女教育専門相談員連絡協議会定例会及びWEB相談員連絡会 参加・報告
6. 対外活動  
・海外子女教育専門相談員連絡協議会にメンバーとして参加  
・文部科学省「在外教育施設派遣教師研修会」にて講義 (Web) 「保護者の期待する日本人学校・補習授業校」  
・賛助企業依頼による海外赴任前セミナー (主に Web)  
・寄稿：『海外赴任ガイド』「母たちの海外体験談」他 (株式会社 JCM 発行)、  
『月刊グローバル経営』 World Report、声・Voice (一般社団法人日本在外企業協会発行)、  
『週刊 N Y 生活』「教育なんでも相談室」(ニューヨーク生活プレス社発行)、  
『グローバル子女教育』(Y's Publishing Co., Inc. 発行) 他  
・協力：公益財団法人海外子女教育振興財団 帰国生のための学校説明会参加、ポータルサイト情報提供
7. 来訪、お問い合わせ、取材を受けた団体・企業・学校 (順不同)  
公益財団法人海外子女教育振興財団、株式会社 JCM、株式会社早稲田アカデミー、  
ワイズ・パブリッシング・ジャパン株式会社、株式会社アイウェア (JOBA)、一般社団法人日本在外企業協会、  
グローバル化社会の教育研究会 (EGS)、NPO 法人海外安全・危機管理の会、Kempo TV、  
ゆいグローバルネット、ニューヨーク生活プレス社、東京 YMCA 他
8. 『帰国生のための学校案内 2026』宣伝にご協力いただいた団体・企業 (順不同)  
公益財団法人海外子女教育振興財団、一般社団法人日本在外企業協会、プチポア (ベルギー)、タイランドハイ  
パーリンクス、Mix B (12 都市)、ニューヨーク生活プレス社、株式会社 JCM、Y's Publishing Co., Inc.

## 2025 年度賛助企業 (順不同)

東京海上日動火災保険株式会社、本田技研工業株式会社、株式会社ブリヂストン、  
株式会社 JCM、花王株式会社、日清食品ホールディングス株式会社、日本製鉄株式会社、  
株式会社早稲田アカデミー、株式会社リロケーション・インターナショナル、日本たばこ産業株式会社

## 『帰国生のための学校案内 2026』広告掲載団体・企業・学校 (順不同)

株式会社 早稲田アカデミー、公益財団法人 海外子女教育振興財団、KA INTERNATIONAL 株式会社、  
株式会社 日本入試センター (SAPIX)、大妻中野中学校・高等学校、海城中学高等学校、駒込中学校・高等学校、  
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、成蹊中学・高等学校、聖心女子学院中等科・高等科、  
東京都市大学付属中学校・高等学校、西大和学園中学校・高等学校、富士見丘中学高等学校、  
学校法人宝仙学園 順天堂大学系属理数インター中学校・高等学校

皆様のご支援に感謝申し上げます

## フレンズ掲示板

### 帰国生のための学校案内 2027

首都圏版

価格 国内：3,740円（税・送料込）

海外：3,400円（送料別）



2026年10月16日発行 HPにて予約受付中



フレンズのインスタです。  
フォロー、共有よろしくお願いします。



ID : FRIENDS\_KIKOKUSEI\_SUPPORT

@FRIENDS\_KIKOKUSEI\_SUPPORT

### スタッフ募集中！

ご希望の曜日に週1回、銀座のオフィスで一緒に活動して下さる仲間を募集しています。

活動時間：月～金 10:30～16:30 ご都合に合わせて、在宅ワークと組み合わせての活動も可能です。

#### 【主な活動内容】

- ①年に一度発行「帰国生のための学校案内」制作。学校訪問&訪問記の執筆。
- ②協力企業・団体の依頼によりエピソードや体験談を執筆。
- ③赴任前、帰国後相談(主に Zoom オンラインにて実施)。

\*交通費実費支給

\*③を中心にご協力いただくネットワーク会員も同時募集！（登録制。不定期の活動）



↑↑↑  
お申込み、お問い合わせ  
はこちらから

### 編集後記

2026年も早くも半分が過ぎようとしています。今年こそは世界が少しでも平和になりますように、という願いも虚しく、新たに中東情勢の緊迫状態が続いています。現地に駐在していた多くの日本人が退避を余儀なくされ、先行きが見えない中で学校生活の中断や変更を強いられているお子さんも少なくないと聞きます。1日も早い事態の終息を願うばかりです。

さて、フレンズだよりでは新企画が始まります。過去4回にわたって掲載してまいりました「学校案内制作現場から」の後続企画として、弊会発行の「学校案内」ではなかなか紹介しきれない学校情報などをお届けしたいと考えています。さらに、海外駐在への帯同に伴いキャリアを中断された方や、海外での経験を生かして帰国後に新たな挑戦をされた方々の体験談もご寄稿いただく予定です。どうぞご期待ください。

## FRIENDS 帰国生 海外赴任サポート

〒104-0061 東京都中央区銀座5-3-16 日動火災・熊本県共同ビル8階

TEL 03 (6633) 4096 FAX 03 (3573) 1217 Email:fkikoku@gaea.ocn.ne.jp